



No.68 2014年12月発行

〈会員の窓 23〉

催しのいまむかし

木村俊二郎

私と淀川愛好会との関わりは、催し物開催が橋渡しになりました。淀川愛好会設立の年の YODORIC NEWS の No.2 には、当時私が所属していたラジオ大阪の催し「淀川“わんど”クリーン大作戦」の告知が掲載されています。ということは、淀川愛好会設立の当初から催しを通して関わっていたことになります。

ラジオ大阪が「淀川“わんど”クリーン大作戦」を始めたのは、1987年。当時、旧建設省をはじめ監督官庁は「余計なことはできるだけ実施しないでいただきたい」という根強い方針があり、規制は極めて強く、河川敷でのイベント開催の手続きは今では考えられないほど大変でした。必要な書類も淀川工事事務所に使用面積の計算書、工作物の設計図等を添付した使用許可申請書、消防署に催物開催届、治水事務所に河川占有料の免除申請等々。これらは仕方がないとはいえ、警察署からは何度も呼び出され、実施詳細から駐車場やテキヤ対策から地元対策まで説明を求められました。

その後規制は大幅に緩和され、誰でも比較的容易に、多彩な催しを開催することができるようになりました。それはそれで大変いいことなのですが、一方新たな問題も出てきています。

先日、自然体験活動協議会（CONE）が開催した安全管理のお話を聴く機会がありました。野外活動に限らず、管理者の安全管理に係る訴訟が東日本大震災後増えているそうです。催しの開催にあたって、今ではけが等の事故対策としての傷害保険は普及していますが、それに加えて賠償責任保険はどうするのか、その前に保険は本当に役に立つのか、責任から逃れるためではありませんが過失責任を問われないためにどのような準備をしたらいいのか、ヒューマンエラーにどう対処するのかなどなど、新たな社会的な要求も出はじめました。

今後、催しの開催にあたっての安全管理は、これまで以上に主催者にとって非常に重要な課題となってくるように思っています。

(淀川愛好会会員・近畿子どもの水辺ネットワーク幹事)

イベント案内

淀川愛好会 総会・新年会 2015

淀川愛好会の総会・新年会を下記のように企画しました。多数のご参加をお待ちしております。

日時：2015 年 1 月 10 日(土)18:00~20:00 会費：3000 円

会場：酒処かつみ 寝屋川市東大利町 4-15 電話番号：072-826-7574

京阪本線 寝屋川市駅から西へ 300m

申込切：1月5日(月) 淀川愛好会事務局まで

第 17 回 淀川討論会

日時：2015年2月28日(土)14:00～17:00 終了後懇親会(会費 3000 円)

会場：摂南大学 11 号館 11 階スカイラウンジ 申込〆切 2 月 21 日(土) 淀川愛好会事務局まで

1. 「自然災害の現状と対策法」(摂南大学 道廣一利教授)
2. 「京都大学防災研究所宇治川オープンラボラトリー構内巨椋池流域模型ビオトープ構想」
(澤井健二摂南大学名誉教授)
3. 参加団体からの活動報告

道廣一利先生退職記念講演会

日時：平成 27 年 3 月 14 日（土）14:30～15:30

参加連絡先:電子メール michi.kinen@gmail.com

会場：摂南大学 12 号館 4 階 1242 教室

電話 / FAX 072-839-9126



イベント報告

淀川流域天然アユの見聞・食べ比べ

10月19日(日)に京都大学防災研究所宇治川オープンラボラトリーにおいて、京の川の恵みを活かす会の主催で「第4回川の恵みを活かすフォーラム」が開催されました。

今回のフォーラムには大阪府立環境農林水産総合研究所や芥川倶楽部など沢山の市民団体の参加がありました。午前の部では、まず谷口順彦先生による「淀川水系における天然海産アユ見聞記」と竹門康弘先生による「川の恵みを活かすために」の講演があり、次に各団体の活動報告がありました。午後の部では、天然アユの食べ比べが行われ、コイの刺身やナマズの蒲焼き、ニジマスのから揚げ、コイの味噌汁、ナマズの味噌汁、ゴリのお茶漬けなど普段中々食べることができないものを食べることができました。



アユの塩焼き

巨椋池流域模型ビオトーププロジェクト

現在の進捗状況は池の掘削を終え、碎石を並べて周辺の鉄道・主要道路を表そうとしているところです。鉄道・主要道路は、わかりやすいように、これから各地点の名前を書いた看板を設置する予定にしています。また、碎石を敷く下に厚さ5mmのゴムシートを使用して碎石の間から草などが生えないようにし、その上を人が歩けるよう幅を調節しながら作業しています。それ以外に有名な山(男山、天王山、桃山、黄檗丘陵)を再現し、各地点に縁のある植物(宇治:茶、天王山:竹・笹)をそれぞれ植えています。京大宇治地区オープンキャンパスに公開を合わせ、10月26日にビオトープを全体像がわかるように仮完成させ、お披露目しました。11月末での作業状況としては、鉄道・主要道路を再現するための碎石敷きは南半分が終了し、残り北半分を残しています。また、ビオトープ内の水漏れもあり、何らかの対策を行う必要があるのでさらなる時間が必要です。周辺が終わり次第、ビオトープ内に植物(ハス等)を植える予定もしています。12月23日(火・祝)13時半から宇治川オープンラボラトリーにて第6回相談会を行います。ご関心のある方のご参加を歓迎します。

淀川愛好会 秋のイベント

11月9日(日)の10時半~15時半、淀川愛好会主催の「秋のイベント2014in垂井」を開催しました。淀川愛好会、桂川流域ネットワークの会員や摂南大学石田ゼミ・エコシビル部など約40名の参加となりました。午前は神田浩史氏(NPO法人泉京・垂井代表)の案内で、横掘り式井戸である『マンボ』の見学をしました。地下に穴を掘り、その水脈を集めて農業用水や生活用水にしていることを知って、今の私たちの生活からは考えられないものでした。また、地元の方々との意見交換を行いました。マンボを利用している人としていない人とは、必要性が異なり、管理の難しさがあることを知りました。また、お土産として地元産のブロッコリーや柿をたくさんいただき、とても嬉しかったです。地元産の食材をふんだんに使った豪華なお弁当をおいしくいただき、英気を養った後、2ヶ所の垂井の泉を見学しました。泉は岐阜県名水50選にも選ばれ、ほとりには巨大なケヤキがあり、見に来た人々すべてがその大きさに驚愕していました。その後、南宮大社を参拝し、地域の人々の憩いの場とされている『夢の家』で休憩しながらその日あった貴重な体験を話し合いました。



マンボ掘削想像図(奥村氏画)

普段体験できないようなことができ、大阪のような都会とは違い、垂井には自然が多く存在していてリフレッシュできた1日となりました。

茨田樋イチョウまつり

11月23日(日)に河川レンジャー主催で、樹齢100年にも及ぶ大イチョウのある寝屋川市の点野・茨田樋(まったひ)遺跡水辺公園で行いました。

午前中はEボート乗船を行い、約20名ほどの参加者が綺麗な紅葉に囲まれた淀川左岸幹線水路を満喫しました。午後からはみんなで様々な植物を植えたり、ギンナンや市内小学校から頂いたサツマイモを使ったご飯、暖かい豚汁を食べました。ご飯、豚汁ともに美味しくて、人気だったのですぐになくなりました。その後は、砂絵、ヨシ笛作り、淀川河川クイズなどを行い、参加した子供たちはとても楽しそうでした。地元の方々と交流することができ、とてもいい経験になりました。



Eボート乗船の様子

11月9日(日) 淀川愛好会 秋のイベント 参加者の感想文を紹介

マンボ(径70cm)についてよく理解できました。ありがとうございます。産業遺産として遺して地方再生に役立てていただき、自然をみんなで守って下さい。野上地区の問題ではなく、全国の問題であることを認識して、保全運動に頑張ってください。→自然は管理するもの(里山がそうである) ありがとうございます。歴史的な財産である垂井町は素晴らしい。→人も素晴らしい。水、マンボ等、中山道の宿場街と街づくりの人達がいるので、成功するでしょう! 街づくりの人達が居ることは素晴らしいことですので、村の人たちといっしょになって力を合わせ、少しずつ地域活性化のため階段を上って下さい。期待しております。 淀川愛好会 岡崎善久 「街づくりは人づくり」

マンボ(横穴水路・農業用水用)について貴重な説明をしていただき、明治末期・大正に造られたもので、その技術力には感激した。ぜひ後世に伝えてもらいたい歴史。マンボの維持管理は非常に難しく、ボランティアでつくされている様子に頭が下がる想いである。垂井の湧水は実にきれいな清水。温故知新の精神で維持していただきたい。 道廣一利

午後からの垂井駅から始まり垂井駅で終わる歩き旅をしてみて、“マンボ”という言葉は初めて聞きました。そして今でも生活用水として使われていることを聞いて、昔から残っているもので感銘を受けました。垂井の語源となった水の物語をめぐるとともに、古い商家や旅籠の建物が残る中山道垂井宿をまわることができて良かったです。いろいろ歩いてあつという間の一日でした。また個人的に行ってみたいと思います。

色々なところを歩き、見学し、美味しいご飯を食べることができて良かったです。今日は良い経験ができました。今日はとても楽しかったです。大学では水の動きや水を利用して遊んだりすることを学んできましたが、今回の秋イベントに行った垂井の町は、水と共に生活しているように見えました。いままでにこのような水の利用方法を私は知りませんでした。そのため、とても勉強になりました。また、行ってみたいです。

今日は様々な水辺を見ることができてとても勉強になりました。普段はあまり接しない水辺についていろいろ見ることで、水辺に少し関心をもつことができました。こういった経験を将来にいかせるように頑張りたいです。

淀川愛好会の秋のイベントを通して、今日一日で岐阜県の水のきれいさや川のことについて多くを学びました。一番印象に残っているのは、マンボという井戸のような水道です。昔から残るマンボに当時の岐阜県のすばらしさがかいまみえました。また、千円と高かったですが、弁当はうまかったです。

垂井には独特な水路があった。必要に応じて人はいろいろ考え出すんだと思った。

毎年毎回思うのだが、予定通りにいったことがない。大体いつも予定の時刻をすぎている。これから社会人となる大学生やすでに社会人のあつまりなのだから、時間にルーズなのはいいけない。

本日はバスでの長旅でした。午前からマンボや垂井町の歴史や文化、地理的なことなど、多く学べたので、来たかいがありました。もう一度行けるなら、また個人的に行きたいです。土木から見た視点がすごいと感じられる一日でした。

毎年秋のイベント、ハイキングで歩くのが多い。バスで現地の垂井まで途中での話でマンボの説明は受けていた。一番興味のあるのは掘り方だった。浅い地下を横に掘っていて事故はなかったのだろうか。(聞き忘れたけれど) 10m~70m 穴の中で慣れれば良いのだろうが想像するときびしい恐さがある。

水は必要な所では貴重品で、但しきれいな水であることが大事で、これもただあるだけということでは意味がない。おもてなしが泉~等、わき水のきれいさは大したものだと思う。今ある水は何年も前の水だと思うけど。

垂井の町、小さな街だけれど、歴史的な土地の名所があった。考えてみると日本全国その町その町、歴史があるので、また新しい思いで今後に伝えたいと思った。南宮大社、金属加工の神様らしい。出雲大社の人も何かお札を貰いに来た事も有るとか言っていた。古くは近くに鉾山が有ったらしいけれど。 上田幸伸

今日はありがとうございました。マンボ(横掘り井戸)の作業内容を考えると、人間ってすごいことができるものだと感じました。継続は力なり。今後もよろしくお願いします。 奥村俊二

私達一行が垂井町を独占したようなツアーでした。私の育ったふる里と重複する風情が感じられました。10月25日の母の法要のために、ふる里の下松市(山口県)に帰りました。その前日、秋芳洞と秋吉台を見学して山口市の湯田温泉に泊まりました。秋芳洞がある所や湯田温泉境界が垂井町の水環境とよく似ていました。町中を清流が流れていてハヤが泳いでいてドンコもいました。昨年の「秋のイベント」と同じく、今回も思い出に残るよい企画でした。重ねてお礼を申し上げます。 相本

半年の経験から得たもの

千葉 翔平

私は、4 回生で石田ゼミに所属しました。滋賀の出身なのですが、自然と触れ合っただけがあまりなかったので、そういった経験をしてみたいという思いから、石田ゼミを選択しました。石田ゼミでは様々な活動を通じて、市民団体の方たちと交流することができ、とても貴重な体験をすることができました。その中でも私は卒業研究の関係で、芥川倶楽部、高槻市役所の方たち、そして芥川の地域の住民の方々に深くお世話になりました。

私の卒業研究のテーマは芥川におけるアユの遡上調査およびアユの仔魚調査です。遡上調査は、芥川に設けられた魚道に何匹アユが遡上するのかを調べるというものでした。この調査は、芥川の地域住民の方々や、摂南大学の学生たちに協力していただいたおかげで、行うことができました。この経験から協力することの大切さを学ぶことができました。また、この調査の様子を 2014 年 6 月 18 日のNHK関西ラジオワイドで説明するという貴重な経験をすることもできました。

9 月には、東京で開催された「第 7 回いい川・いい川づくりワークショップ」に芥川倶楽部の方々と参加しました。残念ながら入賞することはできませんでしたが、様々な所属の人の色々な考えを聞くことができ、自身の成長につなげることができる素晴らしい経験になりました。

10 月には、京都大学宇治川オープンラボラトリーで様々な河川の魚を食べる『川の恵みを生かすフォーラム』がありました。コイの刺身や、アユの塩焼き、ナマズのみそ汁などいただきました。想像していたよりもずっとおいしいことに驚きました。

ゼミに入った当初は素手で魚を触ることができなかったのですが、活動を通じて自然と触れ合うことで魚にも慣れることができました。こういった様々な経験をいかし、これから社会に出ても成長していきます。

会員募集・寄稿のお願い

淀川愛好会では、淀川に興味・関心のある方のご入会をお待ちしております。ご入会を希望される方は淀川愛好会事務局へ随時ご連絡ください。また、「会員の窓」も随時募集しています。

編集後記

恒例の秋のイベントで訪れた岐阜県不破郡垂井町、昔の面影を残すその街並みは、人通りが少なく静かに小雨に煙っていて、中山道の「垂井宿」として栄えていた往時が偲ばれる風情でした。先人たちの知恵の結晶“マンボ”を覗き、そしてこんこんと湧く泉から流れ出る清らかな小川には小さな魚が泳ぎ、サワガニもいる情景に心を洗われ、癒されました。

学生さん達にとっても、豊かな自然の中に手厚く保護・保存されている“歴史”に直に接することができて稔り多き一日だったようです。

一昨年、昨年そして今年の「秋のイベント」に参加して思うに、いずれも思い出に残る素晴らしい企画で、そのような企画力をもつわが淀川愛好会の底力をあらためて高く評価したい。

編集長 相本太刀夫（元摂南大学薬学部教授）